

日中に連絡が取りやすい電話番号(携帯電話番号など)をご記入ください。

記入例

年 月 日

和歌山市長 殿	申請者	住所		連絡先	
和歌山県知事 殿		フリガナ		フリガナ	
近畿農政局長 殿		個人・法人名		代表者氏名	
農林水産大臣 殿					

目標時点(5年後)で経営農地(貸借含む。)が和歌山市のみの方は、「和歌山市長 殿」に○をつけてください。  
 目標時点(5年後)で経営農地(貸借含む。)が複数市町村にまたがる場合は、「和歌山県知事 殿」に○を付け、通知文を参考に、県へ提出してください。

農業経営基盤強化促進法(昭和55年法律第65号)第13条第1項の規定に基づき、次の農業経営改善計画の認定を申請します。

農業経営改善計画																					
①農業経営体の営農活動の現状及び目標																					
(1) 営農類型																					
現 状							目 標 (13年)														
<input type="checkbox"/> 稲	該当する営農類型 <b>1</b> に☑をしてください。																				
<input type="checkbox"/> 施設野菜	・単一経営(稲作、露地野菜、施設野菜、果樹類、花き・花木等)：経営体ごとの農産物販売金額1位の部門(作目)の販売金額が、農産物総販売金額の80%以上を占める経営をいう。 ・複合経営：経営体ごとの農産物販売金額1位の部門(作目)の販売金額が、農産物総販売金額の80%に満たない経営をいう。																				
<input type="checkbox"/> 畜産																					
(2) 農業経営の現状及びその改善に関する目標																					
		現 状		目 標 (13年)				現 状		目 標 (13年)		主たる従事者の人数									
年間所得		250万円		400万円		年間労働時間		2400時間		2000時間		1人									
主たる従事者1人当たりの年間所得		250万円		400万円		主たる従事者1人当たりの年間労働時間		2400時間		2000時間											
②農業経営の規模拡大に関する現状及び目標																					
(1) 生産																					
		現 状				目 標 (13年)															
作目・部門名(耕種)		作付面積(a)		生産量		作付面積(a)		生産量		作目・部門名(畜産)		飼養頭数(頭、羽)		生産量		事業内容		現 状		目 標 (13年)	
ダイコン		60		57 t		90		85.5 t		項目が多い場合は別紙へ記入してください。								万円		万円	
ニンジン		60		27 t		90		40.5 t										万円		万円	
																		万円		万円	

申請から5年後に1人当たりの年間農業所得が400万円以上になるように計画を立ててください。

申請から5年後に1人当たりの年間労働時間が2,000時間程度になるように計画を立ててください。

家族経営の場合、主たる従事者は1人です。

(3) 農用地及び農業生産施設

ア農用地						イ農業生産施設						
区分	所在地		地目	現状 (a)	目標(13年) (a)	種別	所在地		規模			
	都道府県名	市町村名					都道府県名	市町村名	現状		目標(13年)	
									棟	m <sup>2</sup>	棟	m <sup>2</sup>
所有地	和歌山県	和歌山市	畑	60	60	ビニールハウス	和歌山県	和歌山市	1	70	1	70
借入地	和歌山県	和歌山市	畑		30	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">                     ・ハウス                      ・畜舎                      ・温室 等                       ※倉庫は該当しません。                 </div>						
その他	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">                         特定作業受託の面積を記載                     </div>											
経営面積合計				60	90		経営面積合計					

③生産方式の合理化に関する現状と目標・措置

(例)

- ・現状：農地が分散しており、効率的な管理ができていない。  
 目標：農地を最大限集約する。
- ・現状：園内道が未整備で、収穫物の搬入・搬出に時間がかかっている。  
 目標：園内道の整備により、搬入・搬出作業の効率化を図る。
- ・現状：手作業や旧式機械が多く、作業に手間と時間がかかっている。  
 目標：大型機械の導入により、作業の効率化を進める。
- ・現状：品種の固定化が進み、品質のバラつきがある。  
 目標：優良品種への改植を進め、高品質化を図る。

④経営管理の合理化に関する現状と目標・措置

(例)

- ・現状：経営データのデジタル化が進んでおらず、詳細な経営分析ができていない。  
 目標：パソコン経営簿記の導入により経営分析を行う。
- ・現状：単式簿記（または白色申告）のため、経営費と家計費の境界が曖昧である。  
 目標：複式簿記の導入により、経営と家計の分離を行う。
- ・現状：個人事業主としての経営であり、社会的信用や事業承継に課題がある。  
 目標：法人化を目指す。

具体的な取り組みを記載

⑤農業従事の態様の改善に関する現状と目標・措置

(例)

- ・現状：休日や給与の基準が明確でなく、生活と仕事の境界が曖昧になっている。  
 目標：家族経営協定を締結し、休日制・給料制を導入する。
- ・現状：各自の役割分担が不明確で、作業効率が上がっていない。  
 目標：家族間で役割分担を行い、作業時間の短縮に努める。（農薬散布・草刈りの同時並行や機械作業・栽培管理の分担）
- ・現状：就業規則等が未整備のため、外部人材を雇用する環境が整っていない。  
 目標：人材確保に向けた就業規則等の整備。

⑥その他の農業経営の改善に関する現状と目標・措置

